

第1回新居浜市国際交流推進委員会会議録

日 時：平成28年10月20日（木） 15：30～16：35

会 場：新居浜市役所3階 応接会議室

出席者：曾我部謙一委員、土井美智子委員、真鍋英子委員、鈴木雅志委員（代理）、東田奈保委員、鎌田真太郎委員、大西政年委員、藤田優委員、星川孝徳委員、岡部淳委員、亀井利行委員、岡松良二委員、武方弘行委員（13人）

（欠席）大亀安美委員、大野一樹委員、筒井宗彦委員、宮部隆彦委員、井上美樹委員（5人）

傍聴者：0人

○会長・副会長選出

・・・会長挨拶・・・

○「中学生海外派遣事業の現状と今後の方針について」

・・・事務局説明・・・

（教育長補足）

今年がフランクリン市と交流を始めて10年目となる。6月にフランクリンから高校生がやってきた時にこれまでお世話になってきたケニア先生と話をしたが、次の5年間の協定を結ぶと途中でケニア先生が定年を迎える。また今年はこちらから20名、アメリカ側からは7名というアンバランスな人数配分になっており、アメリカ側で20名のホームステイ先を探すのが困難となってきている。そういう事も含めて、今回私が団長としてアメリカを訪問するが、その時にフランクリンだけではなく近隣の都市との関係性も勘案しながら、これから先の方向性について調整にあたらせていただければと考えている。この場においてこれからの国際交流についてアメリカだけではなく、

他の案があるとか皆さんの意見をいただいたうえで、29日からのアメリカでの考えを決めたいと思う。

(会長)

色々説明があったが、ケニアさんの関係でいくと、今後5年間の交流は難しいという事か。

(教育長)

はい。

(会長)

フランクリン市で今後交流を続けられるかということは今回10月末からフランクリンに行って確認は取れるのか？

(教育長)

はい。

(委員)

最近の状況として、定員を超えた応募というものはあるのか？

(事務局)

学校推薦という形で各中学校の1年生と3年生各1名ずつの20名で訪問団を編成している。結果的に中学校の中での選考という1つのハードルはあるが、教育委員会の中に訪問団として名前が出てくる段では既に各校中1・中3各1名となっており、そういった流れの中では20名を超える形にはなっていない。中学校の中においては一定の参加希望の中学生はいると思うが、今のところ選考結果の20名を訪問させているという現状である。

(委員)

1年生と3年生というのは何か意味があるのか？

(教育長)

先ほど説明したように受け入れ先がケニアさんだけではなくもう一人おり、中学1年生と3年生は学齢で言えばアメリカでは中学生と高校生に分かれるので、ケニアさんは高校を担当していただき、もう一人の方に中学校を担当していただく。そのためそれぞれ10人ずつに分けているのが現状である。

(委員)

本事業を続けるとして、その効果はどうか？海外派遣事業に参加した生徒がどう変わったのか？

(会長)

お手元の冊子の中に色々な話が出ていると思うので、それを読んでいただきたい。個人の意見として、こんな風に考え方が変わったとかが書いてある。我々はまだ今日見ただけで分からないと思うが、やはり国際交流も含めてそういう経験をする機会を作ってあげるべきじゃないかなと。だからできれば続けてあげたいと思う。

(委員)

選考については何百人の中から1人を選ぶため、その基準はかなり難しいのではないと思う。例えば成績がいいとか、生徒会活動をしているとか、性格が明るいと、馴染みやすいとかいろいろな事で選ぶのだろうが、例えば学校で1人選ぶという場合は学年に関係なく、3年生から1人とか1年生から1人とかではなく年齢が混ざっている方が面白いのではないと思う。1年生と3年生と同じ学年である必要もないと考える。自分もウィスコンシンに1年間あまり滞在していて、3人の子供を連れて行っていったので丁度逆だなと思った。小学校3年生の息子は2か月ほどしたら何とか交流できたが、今の子供はALTも居るので少し英語に慣れているのでないかと思う。しかし、1週間程度アメリカに行ってもどうということがないのなら英語の力じゃない部分も大事ではないか？

(会長)

選定基準はどのようなものか？やはり学校推薦なのか？

(事務局)

学校ではまず、教育委員会が作る要綱に基づいて、各保護者を通じて募集をする。応募のあった生徒についてはまず面接も実施するし、それからなぜ応募したのかというような動機、そしてこの国際交流によって何を学びたいかというような事も学校の方では書かせることも多いようである。そのうえで面接などを踏まえて先生方の審議によって候補者を選び、さらにPTAの役員の見解も聞いて最終候補者を決定していくと、その選考の基準であるが、

1つは集団行動ができるというのが非常に大事であり、参加する目的意識がはっきりしているという事も大事である。それから英語の面接もやっているようである。日本語の面接と合わせて英語の先生を中心にして英語の面接等も行い、そのやり方はそれぞれの学校に応じて多少違いはあるが、基本的には人物重視、そして目的意識をはっきり持って協力してこの国際交流が進められるということで最も適した生徒を、現在は中学校3年生を1名、1年生を1名と、ちょうど2年生が修学旅行の時期と重なっているので、そうしたことへの配慮もあるし、15歳がアメリカでは高1にあたるというのもあり、中3生はハイスクールの方に、中1生はミドルスクールの方に通っていると、このような現状になっているようである。

(会長)

説明があったが何か質問があれば。

(委員)

基本的に20名というのは新居浜市内に中学校が10校あるから10校×2で20名だが別子中学校もできているので、11名にした方がいいのではないかと思う。

(事務局)

別子中学校においては、「グローバルジュニアハイスクール」という位置づけにしていることもあるので、今後の流れの中では別子の子供たちにある程度優先的な派遣も含めて考えていかなければいけないのかなと考えており、そういう風になった時には逆に20名の枠が広がることが将来想定されると考えている。

(委員)

10名という事で言われているが、10名だったらフランクリンは受け入れてくれるというのは、まだ今からの交渉になるのか？

(教育長)

はい。

(委員)

では、交渉しやすくするために10名だったら向こうとのバランスが取れるだろうという事か？

(会長)

私の考えでは今回行ってみないと分からないというところが一番大きいのではないかと思う。先ほど、ロンドン市というところの市長と話をしたが、オハイオなので（フランクリンに）近い。そちらの市長と色々な話をしているが、広域で考えていくという必要もあるのかなという気がした。だから、行って（フランクリン側が）OK というのであればそのまま続けていけるということになる。

(委員)

今まで20名だったのが10名というのは縮小傾向になると思う。やはり国際交流はもっとどんどん伸ばしていく方が今後のためにはいいんじゃないかと思うので一旦10名になってもできるだけたくさん、20名ぐらいには戻せるような方向を何か考える方がいいかなと思う。

(会長)

受け入れの方が問題だと思う。向こうにそれだけの能力があるか？できる能力があれば有償でも結構だと思う。

(委員)

ホストファミリーには無償でお願いしているのか？

(事務局)

現在は無償である。

(委員)

色々なパターンがあって、かなり払う場合もあり、そうすると経費がかさむ。逆に日本で受け入れる方も、ホストファミリーが減ってきている。20年ほど前は高校生（高専等）で手を上げる人がたくさんいた。最近では親が会社の関係で英語を話したり、子供が英語の塾へ行ったりして英語が浸透しているため外国人が珍しくなくなってきた。とにかく、新居浜でホストファミリーを探すのが困難となっていることから、アメリカでホストファミリーが減っているのも分かる。

(事務局)

2年に1度10名程度の生徒を連れてアメリカからケニア先生が来ている。新居浜の方は何とか各学校で1, 2件探して受け入れをするという形になっている。応募をして希望したところで校長が推薦するという事で対応している。新居浜の方は10名程度で2年に1回なのでクリアーできている。

(委員)

私が言ったのは長期の例で1年間とか半年とか夏季の2週間とかであるが、フランクリンでは何泊ホームステイをしているのか？

(事務局)

新居浜から行く場合は、滞在中はすべてホームステイである。新居浜の方も2泊ぐらいで2年に1回である。

(会長)

なかなか決めづらい話がたくさんあり、全体の姿が見えていない部分もあるので、この10月に行った結果、11月にもう一度議案を出してもらおうというのが一番早いのではないかという気がする。ただ、この事業を続けるかどうかについては今日皆さんの意見を聞きたい。

(委員)

7泊と2～3泊ではホストファミリーの負担が全然違うので、ホストファミリーを探すのが困難であれば、前後にホテルを入れるとか言う事も人数を確保する上ではあってもいいかなと思うので、可能かどうか考えの中に入れてほしい。

(会長)

フランクリンに行ったときにその話をしてはどうか？

(教育長)

今も色々な話を伺っている中で20名という一定の枠は確保した方がいいという声が多かったかなという風に受け止めた。あと、できればホームステイという向こうの人たちとの密接なコミュニケーションができるような形態の中に組み込んでもらいたい。そのうえで今のような7泊のような長いものでなくてもホテルや大学等も想定しているが、こういった寮などでの生活も含めて色々考えていくような交渉をさせていただいて、帰ってまた皆さんのご意見をいただくという事でよいか？

(委員)

相互交流というものが叶うのならば、続けられればよいと思うが、一方的なものになるのであれば、受益者が特定少数になるのでどうなんだろうという思いはある。相互交流が叶うのであれば後々広がっていくものなのでよいと思う。

(会長)

一番問題なのは、個人的なものつながりでも今まで繋がってきているという部分があり、その人がいなくなると継続できないという事ではないかと思う。そういう意味では、市同士の契約であるとかいう形で決めていかないと交流も含めてなかなか難しいのではないかと思う。

(委員)

今現在の海外情勢などを考えると、安全面という部分も考えてアメリカに行っているのかもしれないが、どんどんグローバル化しており、新居浜自体も多文化共生になってきていると思う。行先はアメリカだけに特化しないでアジアとかに目を向けて、相互交流という面では難しいかもしれないが、アジア、ラオス、ベトナム、インドなどに派遣して現実を見せるのも1つの良い体験になると思う。安全面を考えると無理なのかもしれないが。

(委員)

最初の紹介にもあったが、この委員会は10年前に開催され、その時も委員をしていた。先ほどの委員さんと同じ意見を言わせてもらったが、私の場合は、アジアであるとか姉妹都市で交流のある徳州市はどうかとの話をしたが徳州市では中学生の応募が大幅に減ると、若い中学生はアメリカやヨーロッパに目が向いているという事で、まだ時期ではないというのが10年前の委員会での意見であったが、国際情勢は色々変わってきておりアメリカだけというか、ヨーロッパがグローバルスタンダードではないというのが世界の流れにもなってきているし、先ほどの委員さんが言われたようにアジアにも勢いのある国はたくさんあるが、現在の訪問先もコネクションのある方のおかげで決まった経緯もあり、現地でしっかり責任を持って対応してくれる人がいないとなかなか中学生の派遣は難しいと思うが、これから子供たちが視野を広げていくという面を見れば、アメリカだけではなくアジアでも中南米でも、そういった所に色んな目を向けていけたらと思う。私はアフリカの

タンザニアに行っていたが、中学生、高校生に話をするにあたってアフリカのイメージを聞くと「暑い」「貧しい」「黒人の人がいる」の3つぐらいしか出てこない。大人に聞いても同様のイメージしかない。色々な話をすると色々な事が分かったという感想をいただく。多分アメリカがいいなというのは、中学生、高校生の今までの人生の中での価値観だと思う。せつかくこういう事業があるので、もしよければ新しい価値観、今まで見たことなかったこと、聞いたことなかったこと等の新しい知識、本当に英語を勉強しに行くとかではなくて、海外に住む人たちがどんな生活をしているのかとか、自分たちとどんなところが違っているのかなどという側面を見れるような研修が出来ればいいなというのがある。

(委員)

外国人に日本語を教える「夜間教室」を実施しているが、10年前は「夜間教室」を学びに来るほとんどが姉妹都市の提携をした徳州市の留学生だった。今現在はベトナム、ケニア、フィリピン、韓国で中国は少数になってしまってどんどん変わってきている。最近はネパールとか、そのうちミャンマーが現れるのではないかと思っている。愛媛県がミャンマーと提携をすれば、研修生が入ってくる、その人たちが「夜間教室」に入ってくるといった、いわば「夜間教室」が日本の縮図になっている。そういう事を今の小学生、中学生、高校生が知らないというのが現実だと思うので、そういう事を派遣事業を通して少しでも感じれるようなものが出来ればと思う。

(会長)

派遣というか経験のために行くことが主体になっているという事でよいか？交流事業がなくなって完全に子供たちに経験をさせる一つの海外旅行という形はどうかということによいか？そういう事も視野に入れてという事か？

(教育長)

今回それを視野に入れてというのは難しいと思うが、可能であれば新居浜に居る外国の方と新居浜市内の子供たちを結ぶような事業が出来ないかと委員さんの話を聞いて思った。

(委員)

教育長と同じ意見だが、自分の娘が関東に居るが、出前授業に自分が関わっている外国の方を連れて小中学校へ行って民族衣装を着て簡単な言葉を話

したり自分の国についての話をしたり、簡単な日本語を話したりすると学校ですごく盛り上がるらしい。学校の方からも要請がどんどん来てボランティアが大忙しだという話を聞いて新居浜でも実施してもらいたいと思った。

(委員)

先日教育長がスピーチコンテストでケニアの方が話すのを見て、小学校でやってくれたらいいと言った。

(委員)

ユネスコ協会でも定期総会で毎年1回新居浜高専に来ている留学生に自分たちの国の説明をしてくれる。映像を見ながら文化や地域の特徴を話してくれるので、大人が聞いていても刺激もあるし勉強にもなる。そういう風にな新居浜に居る外国人にその国の文化などを説明してもらえらる機会を作って学校で取り入れてはどうか？

(会長)

派遣事業だけでなくこの会は「国際交流推進委員会」という名前なのでその部分は別枠で方策を考えていくという方向でよいか？

(委員)

確認であるが、今日のこの議題は「中学生海外派遣事業」の現状と報告をするという事で、フランクリン市と相互交流しているがフランクリン関係者から今後5年間同じような交流は難しいと言われている。この事業自体の存続について場所を変えてはという意見があったが、現状のまま存続するのであれば、フランクリン側の負担を減らしていく。結局（フランクリン側から）打診はあったが、今回アメリカに行ってみないと細かい現状は分からないという事か？話があった以上、同じ状態で継続するのは難しいが今に近い状態で継続することも可能か？

(会長)

もう一つ考えないといけないのは、この先ずっと継続できる方策を考えることである。5年間だけできる方策では5年たつてまた同じことをしないといけないので駄目である。その辺りを今回どのようにやり繰りできるかを詰めていかないといけない。また、人数についても20人は難しいという話で、10人なら可能かどうかは今から当たっていかないといけない。それから（現地とのやりとりを）受け継いでくれる人はいるかどうか、その辺も考えない

といけない。

(委員)

いずれにしても、事業が実施されて今後のスケジュールでどうするかのような事を会議で決めることになるのか？

(教育長)

今回現地で様々な調整を考えており、フランクリンだけでなく他の場所も含めて協議をしていきたいと考えている。様々な題材を持ち寄り帰国後皆さんの意見を聞きたい。

(委員)

国際交流推進委員会なので、英語にこだわらなくてもいいが、小学校の場合は平成32年から英語が5, 6年で導入され4, 5年生は英語に限らない外国語活動が入ってくるのでその延長上として英語・英会話のウェイトが大きくなる。その辺りを頭に入れて、子供たちが習得したものを使ってコミュニケーションできるという事がごく大切な事だと思うので、アメリカに限らないが是非英語圏の国という事を考えてほしい。

(委員)

もう20年、30年したら日本語、英語は当たり前時代の来ると思うので、ポルトガル語やスペイン語に目を向けても面白いと思う。

(委員)

言語の話で1つだけ付け加えさせてほしいが、英語は世界共通語でももちろん大切であるが、コミュニケーション能力が海外では一番大切だと思う。英語を習っていても、正しい英語を話さないと恥ずかしいと思って喋らない子供が多い。だけど、こちらが話しかければ間違っている、相手が直してくれるので単語力・語彙力ではなくて自分をわかってもらい、相手をわかろうとするコミュニケーション能力が大事だと思う。習った英語を使うという点では英語圏はいいと思うが、どんどん言語が違う人とコミュニケーション能力を高めていくようなプログラムも中に入れてもらえたらと思う。

(委員)

誤解されているかもしれないが英語圏でないといけないという訳ではない。コミュニケーション能力をつけるという事は教育活動全体で行っており、こ

の事業でどれをとってどれを大切にすることなので、例を挙げて言ったが、もちろん色々な文化に触れることも大切にしていかなければならないが、英語に関して言えば非常に特別な思いがあるという事をわかっていただければと思いを話をした。

(委員)

「夜間教室」に新しく来た ALT 8 名中 7 名が日本語の勉強に来ているが、何が一番緊張をするか聞いたところ給食の時間だと言う。給食を食べていると小学生が英語を話したいが話せないのでツンツンとつついて「おいしい？」と聞いてくる。その度に自分も日本語で話したいがそれが言えなくてもどかしいという話をよくしている。

(会長)

取り敢えず結論を出さないといけないので、今日の議題としてはまず国際交流の中で派遣事業は続けていくという事でよろしいか？

(委員)

・・・賛成多数・・・

(会長)

その中で決めていかなければならないことはまだまだあるが、それは今回 10 月末にフランクリンに行って向こうの結果を聞いて、その中でどのような形で出来るかを 11 月に議論する。その他に国際交流で新居浜市内に居る外国の方と触れ合うようなプログラムを作ってほしいという事でよろしいか？

他には？

○「中学生海外派遣事業の実績及び他市の状況」

・・・事務局説明・・・

(会長)

他市はその都度訪問先を変えているのか？

(事務局)

変えていない。

(会長)

他市の訪問先については受け入れのルートはできているのか？

(事務局)

できている。

(会長)

この資料も参考資料として目を通していただき次回に色々な意見をもう一度出していただくという形になるかと思う。

(会長)

他に何かあれば？

(事務局)

特に無し。

・・・会長あいさつ・・・

・・・会議終了・・・